

路上

霧雨を あびて 櫛は もうぜんと 茂つてゐた
ぬれて ゆれて ぼたぼた 雫をたらした
夕方 晴れさうになつて
雲が あわただしく すぎた
私のからだは 鉄で出来てゐて
私のそばの女の人を 守りつづけた
私は瞬間瞬間を たのしんで
目は うつろに 心は はりさけさうだつた
そして 私の中に その人が とろとろ とけ込んでゐるやうに感じた
空には 白や 黒や うすずみ色の雪が 流れてゐた
世界中が 私たちを 見てゐた